

2025.12.8

報道関係者 各位

< 配信枚数 6 枚 >

重要文化財「神護寺絵図」描写の寺跡を立命館大学院生・学部生らが発見
— 「赤色立体図」分布調査で平安初期など山寺遺跡計 12 地点を確認—

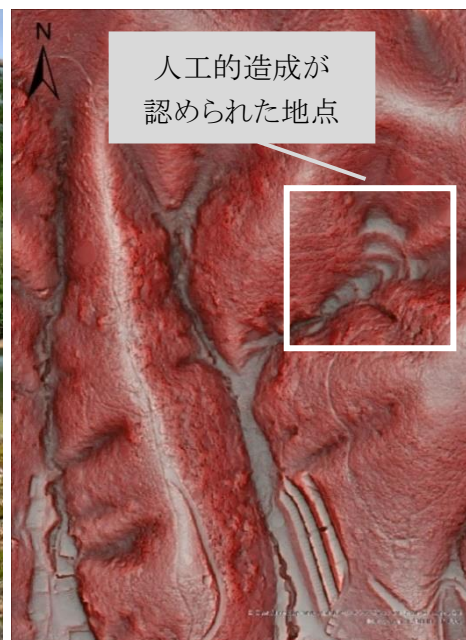
立命館大学文学研究科の大学院生と文学部の学部生らで構成された研究グループは、2025 年 4 月から 10 月にかけて実施した、京都府林業振興課のオープンデータ「微地形図(赤色立体図)」(以下、「赤色立体図」)※1 に基づく山寺遺跡の分布調査で、新たに、高雄山神護寺(以下、「神護寺」)所蔵の重要文化財「紙本墨書神護寺絵図」(以下、「神護寺絵図」)に描写されている「素光寺(すこうじ)」跡を含む計 12 地点の山寺遺跡を発見しました。

本件のポイント

- 最新地形測量データ「赤色立体図」(2025 年 4 月一般公開)で 12 地点の山寺遺跡を新発見
- 重要文化財「神護寺絵図」に描写の「素光寺」跡と推定の遺跡を発見
- 新たに平安京成立当初の京都盆地の人的(宗教)活動の痕跡(平安前期と比定する遺物)を確認



「赤色立体図」でリストアップした地形を調査する学生の様子



「赤色立体図」(0.5mDEM)を
編集加工(大北山天神岡遺跡)

< 研究成果の概要 >

本研究では、本学大学院文学研究科の考古学・文化遺産専修および日本史学専修の大学院生を中心に、同文学部考古学・文化遺産専攻と日本史学専攻の学部生らで構成された研究グループが、京都府下全域を対象に一般公開された地形データ「赤色立体図」を活用し、京都盆地の微地形変化の網羅的な観察を行い、山寺遺跡の可能性を認めた地形のリストを作成しました。現地確認を進めた結果、10 月までに平安時代から中世にかけての遺構や遺物が散布する状況を計 12 地点で確認しました。これら

は、遺構の構成が平場配置であり山寺遺跡と考えられます。特に注目されるのは、右京区嵯峨観空寺谷町の山中で確認された「素光寺」と推定される遺跡です。「素光寺」は神護寺所蔵の重要文化財「神護寺絵図」に描かれた、朝廷と深く関わる寺院です。さらに、大学周辺の衣笠地区や原谷地区の山中にも、古代京都の宗教活動の実態解明に向けた重要な手がかりとなり得る新たな山寺遺跡の存在を確認しました。

＜研究の背景＞

現代では一般に門戸を開く清水寺や延暦寺などの寺院も、古代では僧や尼が修行を行う重要な山寺でした。初期の平安京は信仰を支える重要な場所に山寺を位置づけ、都市中心部に寺院を設けませんでした。しかしながら、現在、山中に存続する寺院は清水寺や延暦寺などを含めごくわずかであり、多くは平地部への移転または廃絶したとされています。

平安期の山寺の研究で、現存寺院以外の様相が判明している事例が少数な理由は、衰退後、跡地の山林化が進み、平安京を取り囲む広大な森林の中から山寺遺跡だけを抽出する作業の難航にあったと考えられます。

＜研究の内容＞

今年度から開始した分布調査は、本学院生および学部生らの研究グループが京都市文化市民局文化財保護課と連携し、本学文学部の岡寺良教授に助言を受け実施しました。調査では、「赤色立体図」を活用し、遺跡推定地点を予測したうえで現地調査を実施する手法を採用しました。

特に注目されるのは、右京区嵯峨観空寺谷町で確認された「素光寺」の跡と推定される遺跡です。神護寺所蔵の重要文化財「神護寺絵図」に描かれる「素光寺」は、神護寺が所有する古文書にも複数の記録が残り、朝廷と深く関わる寺院と研究上知られていますが、具体的な位置は不明でした。遺跡では、京都市内でも類例のない小型軒平瓦や火災痕が残る古代瓦を大量に発見しました。

さらに、衣笠キャンパス近くの「北山」※2 地域でも、平安時代中期の軒平瓦が見つかった大北山天神岡遺跡、平安時代初期の須恵器小型壺の完形品が見つかった鳴滝宇多野谷遺跡など、新たに多数の山寺遺跡を発見しました。これらの山寺遺跡には、かつて北野白梅町駅付近に存在した「北野廃寺(常住寺)」との関連を含む可能性も示唆します。

＜社会的意義＞

本調査は、京都盆地の外側の山々と京内を行き交った人々の存在を暗に示すとともに、山寺遺跡の分布実態が予想を上回ると示唆しています。近年、全国各地で公開が進む「赤色立体図」データを活用した考古学的成果が報告される中でも、本調査は都市内部を中心に展開してきた従来の平安京研究に対し、そのイメージを大きく刷新する独自の視点を提示しています。さらに、従来の都市先行型の京都像を飛躍的に更新し、平安京の人々の移動の実態を紐解くうえでも極めて意義深いと考えます。

＜用語説明＞

※1 セスナ機などにより上空からレーザを照射して地表面の座標点(点群データ)を多数取得することで、得られた数値標高データ(DEM)を元に、赤色を基調として作成された立体地図のこと

※2 京都府京都市北区北西の丹波高地に連なる山間部を指す呼称

＜アドバイザーのコメント＞(立命館大学 文学部 教授 岡寺良)

立命館大学では、考古学研究会や文学部考古学・文化遺産専攻に所属する学生たちを中心に、大学周辺に所在する遺跡の踏査とその報告を長年にわたって継続してきました。近年、全国的に「赤色立体図」のオープンデータ化が進んだ結果、これまで全く知られていなかった山中の遺跡の手がかりを得ることができるようになりました。

今回の発見は、本学の学生たちによって培われてきた遺跡踏査の実績に加え、「赤色立体図」のオープンデータ化が始まったことによって、達成されたものともいえます。

新たに見つかった遺跡は古代から中世にかけての山寺(山林寺院)の遺跡で、いずれも平安京が造営

された京都盆地に面した山中に位置しています。当時の僧侶たちが京都盆地の寺院に拠点を置きつつ、山中修行を行っていた実態を示す重要な発見といえるでしょう。

中でも素光寺は、空海が開いた神護寺と深く関連し、朝廷の祭祀を担った寺院として知られながら、これまで明確な位置や状況は判明していませんでした。このように古代の京都盆地周辺の山寺については、その重要性が指摘されながら、遺跡としての実態が判明した事例はあまり多いとは言えなかったのですが、今回見つかった遺跡の様相をさらに詳細に検討していくことで、京都周辺、ひいては古代日本の山岳仏教の実態を知ることができる可能性も秘めているのではないかと考えています。

<研究グループ代表のコメント>(立命館大学大学院文学研究科 岡村隆洋)

私が学部生時代に所属していたサークルである立命館大学考古学研究会は、2008 年に松尾山寺遺跡を新発見しました。代替わりを繰り返しても調査は引き継がれ、ようやく今年 3 月に、調査報告書を刊行できました。4 月に大学院に進学して以降は、こうした調査の経験から、「京都には他にもきっと未発見の山寺遺跡があるに違いない」と、オープンデータ化が進む「赤色立体図」を頼りに、前人未踏の山中で踏査に挑み、この度の大発見にたどり着きました。人知れず、予想をはるかに超える多数の山寺跡が残っていた現状に驚きを隠せません。

歴史研究の醍醐味は、自らの手で新たな歴史を見出す面白さにあると実感しています。歴史的な新発見となった調査の成果を、展覧会やシンポジウムをつうじて紹介し、より多くの人たちに京都で歴史を学ぶことの素晴らしさを知ってもらいたいです。

<展覧会・シンポジウム情報>詳細は別紙参照。

企画展「京(みやこ)の山寺」―なぜ人は山に登るのか―

◆会場:京都市考古資料館

◆会期:2025 年 12 月 13 日(土)～2026 年1月 25 日(日)

◆概要:新たに発見した山寺遺跡の遺物の展示及び研究状況の紹介

シンポジウム「京(みやこ)の山寺―松尾山寺遺跡と京洛の山寺―」

◆会場:立命館大学衣笠キャンパス以学館ホール 101

◆日時:2025 年 12 月 21 日(日)13 時 00 分～17 時 00 分

◆講演者:梶川敏夫(元京都市考古資料館長)

藤岡英礼(滋賀県栗東市教育委員会)

岡寺良(立命館大学文学部教授)

岡村隆洋・手嶋響紀・岩撫遥(立命館大学大学院文学研究科博士課程前期課程 1 回生)

◆概要:京都盆地周辺の山寺をテーマにした講演・新たに発見した山寺について報告及び検討

以上

本リリースの配布先: 京都大学記者クラブ、文部科学記者会

●本件に関するお問い合わせ先

(研究内容について)

立命館大学 文学部 教授 岡寺 良

Email. okadera@fc.ritsumeit.ac.jp

(報道について)

立命館大学広報課 担当:田中

TEL. 075-813-8300 Email. r-koho@st.ritsumeit.ac.jp

松尾山寺遺跡報告書発刊記念展示会

2025

12.13 [土]

2026

1.25 [日]

京

みやこ



山寺

なぜ人は山に参るのか



令和7年度京都市考古資料館合同企画展

開館時間：午前9時～午後5時

*入館は午後4時30分まで

休館日：月曜日（祝日の場合は開館。翌平日が休館）

12月28日～1月3日は休館

入館料：無料

主催：立命館大学文学部考古学・文化遺産専攻

立命館大学考古学研究会

京都市考古資料館

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所

京都歴史文化施設クラスター実行委員会

京の山寺 —なぜ人は山に登るのか—

令和7年度京都市考古資料館合同企画展

北・東・西の各方を山に囲まれた「四神相応」の地、京都盆地に存在した古代都市、平安京。このみやこを取り囲む山々には、そこに暮らす僧・修行者たちの修行の場である「山寺」の世界が広がっていた——

音羽山清水寺や比叡山延暦寺、高雄山神護寺など今なお人々を惹きつける山寺が存在する一方、ほとんどの山寺は廃絶し、今では歴史の中に忘れ去られた存在となっている。

本企画展示では、立命館大学考古学研究会によって発見された松尾山寺遺跡をはじめ、近年、赤色立体図などの最新データを用いた研究により、その姿が明らかにされつつある京都盆地周辺の山寺について、その遺物を展示し、宮都の外側にあった「京の山寺」の世界を明らかにしていく。



須恵器 甕子 平安中期
松尾山寺遺跡



須恵器 鉢 平安中期
江文寺跡



埴輪唐草文軒平瓦 平安前期
大北山天神岡遺跡



須恵器 甕 平安中期
西京法蓮寺遺跡

関連企画

講演会

オープニングトーク

「松尾山寺について語りたい!」

調査に関わった学生・08が松尾山寺の魅力について語ります!

「日時」12月13日(土) 14:00~16:00

「会場」京都府考古資料館3階3号展示室

「定員」先着50名

「申込」申し込みフォームより申し込み

松尾山寺遺跡調査報告書発行・企画展「京の山寺」開催記念シンポジウム

「京の山寺 —松尾山寺と京洛の山寺—

「日時」12月21日(日) 13:00~17:00

「会場」立命館大学衣笠キャンパス2号館101ホール

「講師」柳澤敏夫(元京都市立考古資料館館長)

藤岡英弘(京都市歴史教育委員会)

菅原謙・岡村隆洋・子嶋雅紀(立命館大学大学院・考古学研究会 08)

岡寺直(立命館大学文学部教授)

「申込」不要(当日会場受付・定員 400名)

体験講座

体験イベント①

「古代の硯で書道体験」

松尾山寺でも見つかった古代の硯(門面硯)を使って墨を搦り、「山寺印」をつくろう!

体験イベント②

「瓦の拓本体験」

拓本で瓦の紋様を写し取ってみませんか?
拓本した紙はお持ち帰りいただけます。

「日時」1月18日(土)

「会場」京都府考古資料館

「時間」体験イベント① 10:00~12:00

体験イベント② 13:00~16:00

「定員」各先着10名

「申込」申し込みフォームより申し込み



※山寺印イメージ



※拓本イメージ

展示解説

「京の山寺展のすべて」

展示を企画した立命館大学学部生・大学院生らによる展示解説。

「実施日」12月13・20・27日、1月30・25日(14:00~15:00の間で随時開催)

※画像上：松尾山寺赤色立体図 中：八瀬法蓮寺遺跡全景 下：須恵器大甕 左下：堀河寺等山寺遺跡須恵器破片



京都市考古資料館
Kyoto City Archaeological Museum

京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
TEL.075-433-3245 (代) FAX.075-431-3307
問合せ先: <https://www.kyoto-arc.or.jp/blog/tolawase-2.html>



資料館お問い合わせはこちら

京都市考古資料館



イベント申し込みはこちら

011-222-0000 (代) 予約受付専用



企画展示「京の山寺」関連シンポジウム

【日時】 2025
12/21(日)

【会場】

立命館大学

衣笠キャンパス

以学館ホール 101

【定員】

400名 (申込不要・先着順)

【参加費】

無料

プログラム

【開会挨拶】 13:00～

【基調講演】 13:10～14:00

京の山寺 安祥寺上寺・檀尾古寺を中心に 元京都市考古資料館長 梶川敏夫 氏

【調査報告】 14:10～14:40

松尾山寺遺跡の調査とその成果 立命館大学文学研究科 岩瀬通・岡村隆洋・手嶋響紀

【講演①】 14:40～15:10

山寺遺跡の調査研究 滋賀県栗東市教育委員会 藤岡英礼 氏

【講演②】 15:10～15:40

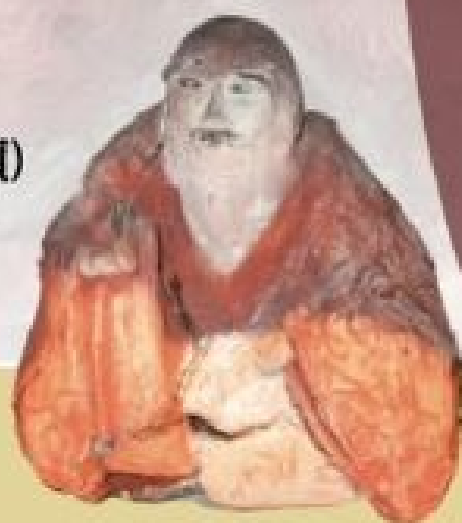
赤色立体図から見えてきた京の山寺遺跡 立命館大学文学部教授 岡寺良

【シンポジウム】 15:50～16:50

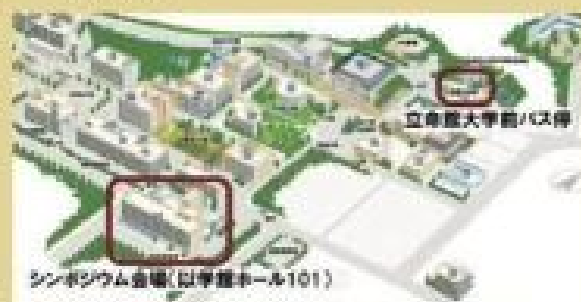
京の山寺—松尾山寺遺跡と京洛の山寺を考える コーディネーター 岡寺良

京都盆地周辺には比叡山延暦寺・清水寺・神護寺など多くの山寺が営まれ、古代から中世にかけて創建と廃絶を繰り返してきました。そうした遺跡の一つである松尾山寺遺跡は、立命館大学考古学研究会が2008年に発見してから約20年を経て本年3月に調査報告書が刊行されました。さらに、2025年に立命館大学の学生グループが行った調査では、新たに12地点の山寺跡候補が確認され、未発見寺院の存在を示唆しています。

本シンポジウムでは松尾山寺遺跡の成果とともに、京都の山寺研究の歩みや調査方法を振り返ることで、平安京を囲む「山寺」の歴史的意義を考えます。



京の山寺 松尾山寺遺跡と京洛の山寺



キャンパスマップ

主催 立命館大学考古学・文化遺産専攻 立命館大学考古学研究会 京都市考古資料館
公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 京都歴史文化施設クラスター実行委員会



上図 松尾山寺遺跡赤色立体図
中図 尊厳大師像（西光寺所蔵）